

んだイスラエルが、最初に原因を作ったのではないか」という論調ですよ。僕はそれについてファクトで反論したいので、これから何回かやっ行って行こうと思っています。

MEMRI (メモリ) という中東報道専門のサイトがありますが、これは私のネタ元で、アラブの新聞・雑誌・テレビ・SNS を英語にして見れるようにしてるんです。しかも感謝なことに、日本語のサイトがあるんですね。でもそれは、古くからの会員でないと入れないと思います。

去年 11 月末頃、アラブのあるテレビ局がガザに入って、住民たちにざーっとインタビューしました。その内容をひと言でまとめると、ガザ地区の住民たちが望んでいるのは、イスラエルに出稼ぎに行くことなんです。色んな年齢層の人たちが口々に、異口同音で言うのは「イスラエルで働きたい！」ガザ地区にいても 1 日働いて 10~15 シェケル、約 400 円くらい。イスラエルで働くとも 1 日 400 シェケル、約 16000 円ですよ。日本より高い。というか日本は低すぎ。

だからイスラエルに行きたいと。なぜなら、昔行っていたからです。昔イスラエルは、ガザ地区からの出稼ぎ労働者を歓迎していました。多い時は 5 万人雇ってたんです。イスラエルは発展しているけど労働力不足なので、パレスチナの人たちに労働力を提供してもらい、パレスチナの人たちはイスラエルから経済的なものを得ることができて、win win の関係だったんですよ。共存共栄。テロで血なまぐさいことをするんじゃなくて、お互いに繁栄する。こんなに良いことはないというのを経験することで、テロに訴えてどちらかを滅ぼすようなことはやめる。そうではなく、イスラエルとパレスチナの国を造る。

今のイスラエル政府も二国家共存ですよ。今のイスラエル政府は、パレスチナ人と同居するなんて考えてません。人口増加率を考えると、ユダヤ人はユダヤ人だけの国、アラブ人はアラブ人だけの国にしたらいいと思ってるんです。歴代政府は全部、そう言ってるんですよ。ところが、イスラエルと共存共栄で潤っていくと困る人たちがいる。ハマスです。

日本の中東研究者によると、「イスラエルが圧政を敷いて苦しめているので、やむにやまれぬ思いで、遂にテロに訴えるしか方法がなかった！」違いますからね！バカも休み休み言えよと。

ハマスはイスラエルの存在を頭から否定し、イスラエル領土全部をイスラム原理主義過激派の考え方に基づいた国を造りたいんです。それがハマス憲章に書いてある。いつか、ハマス憲章全部を紹介したいと思います。長文ですけど。

それを見ると、第一次世界大戦を起こしたのも、国際連盟をつくったのも国際連合をつくったのも、全部ユダヤ人の陰謀だったと。イスラム原理主義とユダヤ陰謀論が合体しているのがハマス憲章です。だから、どんどん陰謀論の方に傾いてしまう。しかも、ほとんどが東大系の学者。唯一の例外が飯山陽 (いいやま あかり) さん。

あの人はいいわ。ほんまに女版ピットブルやね。もう怖いもん無いというか。彼女が刺されないように祈ってます。本当に勇気があるなあと。

イスラエルが絡むと、普通のテロの時はテロ集団を批判するのに、「イスラエルにも悪いところがあるよね」とすり替えていく。そこに大きな疑問を感じるんです。

これからどうなるか。地上戦やりますよ。既に30万人の動員を掛けて、ガザ周辺を10万のイスラエル兵で固めてます。なぜ地上戦をやるのか。100人以上が人質になっているからです。人質がどこにいるのかは、上から覗いても分かりません。ドローン飛ばしても分からない。

イスラエルという国は、自分の国民をものすごく大事にします。昔1人の捕虜を奪回するために、1000人のパレスチナ人テロリストを釈放したことがあります。今回は100人以上です。彼らを毎日のように移動させているので、どこに捕らえられているのかよく分からない。地上で入って行って、一軒一軒ドアを開いてチェックしない限り分からないんです。

しかしそれをやると、必ず大きな犠牲が双方に出ます。そのことが苦しい。イスラエル側にも、ハマスと関係ないガザ地区のパレスチナ人たちも、無用の血が流れないように祈らずにはおれません。でも今回は、ハマス根絶のために徹底的にやると思いますよ。徹底的にやって、ある種の成果を上げると思います。

エゼキエル書 38章を、いつも天満橋バイブル倶楽部で紹介してます。やがてロシアがイスラエルに入ってくるという預言なんですが、その前提条件は、イスラエルがみな安心して住んでいること。今の状況はテロリストと背中合わせて生活しているので、安心ではないんですよ。その最大の危機の原因であるテロ集団ハマスの摘出を、今回は徹底的にやると思います。

しかし、これは生半可なことではなく、大きな犠牲を双方に生むことになるので、テロリストと関係ないアラブ人・パレスチナ人、そしてイスラエル人の無用の血が流れないように祈らずにはおれません。

今日は**ダニエル書 5章**をしないとダメなんです。ここは情報量がいっぱいあって、本当は2回に分けてやるのがいいんですが、ざっくりと言っているんで、ザクッと大急ぎでやらせていただきます。

5章には、歴史的大事件の当日、その数時間前に起こった事が記録されています。歴史的な大事件とは、オリエント世界を治めていた大バビロン／新バビロニア帝国第11王朝が滅びてしまうことです。滅びる当日の数時間前にさかのぼって、何があったのかを記録しているのが**ダニエル書 5章**なんです。

「バビロンの最後の王**ベルシャツアル**がどんちゃん騒ぎで酔っ払っている時、ペルシア・メディアの連合軍が入って来て、たった一日でバビロニア帝国が崩壊した。」

今サラっと言った中に、「そんなのないだろう」とよく批判されている箇所が3つあります。

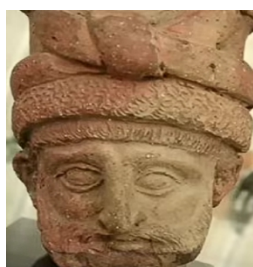
1. 中東の遺跡を掘って分かることは、バビロン最後の王は**ナボドゥス**で、**ベルシャツアル**ではない。ナボドゥスの名が出て来る遺跡や、アッカド語で書かれた粘土板は色々出ているけど、ベルシャツアルと書いてある粘土板は無いんです。逆に、聖書にはナボドゥスという王は1回も出て来ません。だけど、遺跡的には登場しないベルシャツアルが頻繁に出て来る。それで、「聖書は不正確じゃないんですか。聖書の記述は歴史的事実と照らし合わせた時にたくさんの矛盾があるから、架空物語やメルヘンであって、まともに信じない方がいいんじゃないですか?!」

2. 「最後の王ベルシャツアルがどんちゃん騒ぎをしている時、ペルシア・メディアの連合軍がやって来て、彼はその日のうちに殺される」と書いてある。メド・ペルシアの連合軍がどんどん迫っているのに、どんちゃん騒ぎするバカがおるか。どんちゃん騒ぎは、戦って勝ったことを国を挙げて祝う戦勝記念でやること。破竹の勢いでオリエント世界を支配しようとしているメド・ペルシア連合軍が迫っている最中に、トップの連中が集まってどんちゃん騒ぎって、話としてはドラマチックかもしれないが現実性がない。

3. このシリーズですっと説明しているように、バビロンは難攻不落の都市です。堀があり、ユーフラテス川があり、二重城壁がある。ヘロドトスによると城壁の高さは90メートル。どこから攻められても大丈夫な要塞都市。食糧備蓄は25年分。この中にはバベルの塔も建ってるんですよ。こんなに巨大な優れた都市が一日で滅びる。ドラマチックすぎて、これも話として信憑性がない。

しかし、様々な考古学的発見が出て来ることで、全部立証されて行くんですね。それで今日は、これらの疑問点に反論させていただくということで、**ダニエル書5章**を説明していきます。

1. **ベルシャツアル**王のお父さんが**ナボドゥス**王。ナボドゥスは考古学的に色々遺跡が出ているけど、ベルシャツアルのは出て来なかったと言うんですね。ナボドゥス王まで、バビロンの王は6~7人出ました。このバビロン列王記、バビロンの王の歴史をざっと紹介します。



これは最初の王**ナボポラッサル**。パッと見たらスーパーマリオに似てますね。多分髭があったけど欠けてる。彼がバビロンを独立させたんです。はじめはアッシリアの総督でしたが、アッシリアの中がゴタゴタしているのを見て、今が独立のチャンスだ！アッシリアの止めを刺すところまではいかなかったけど、二ネベを陥落させました。

ナボポラッサルが第11王朝バビロニア帝国初代王、1代目です。



この王様の息子が彼です！と言っても分からへん。遺跡なので、凹凸が摩耗していて分かりにくい。右側に槍を持っている人がいますね。彼が2代目の王**ネブカドネツアル**です。



でも分かりにくいので、後世の人が作ったのがこれ。さっきの凹凸だけで、なんでこれが分かるねんと。想像です。ネブカドネツアル王の時代に、バビロニア帝国は黄金期を迎えます。



イラクの独裁者サダム・フセインの時代、バグダッド城にこんなポスターがありました。サダム・フセインの後に髭のおじさんがいますね。ネブカドネツアル王です。ネブカドネツアルは正確には**ネブカドネツアル2世**。サダム・フセインは自分のことを、ネブカドネツアル3世と言っていました。

ネブカドネツアル2世はアッシリアを滅ぼして、中東世界を牛耳る人物となった。だけでなく、エルサレム神殿を焼き払い、ユダヤ人たちを捕虜にしてバビロンに捕囚しました。王の期間は43年間もあり、この間に預言者**ダニエル**が連れて来られて、個人的に様々な相談事をします。それが今までの**ダニエル書**でした。イスラエル殲滅を掲げていたサダム・フセインは、イスラエル神殿を破壊した**ネブカドネツアル2世**の後、俺が3世だと言ったわけです。

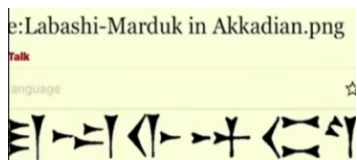


ネブカドネツアル2世の息子が**エヴィル・メロダク**（左）。ネブカドネツアルが滅んだ後、偉大すぎる父の息子はちょっと頼りなかった。というか、ネブカドネツアルの後には、だれでも影薄いと思いますね。

彼自身はあまりカリスマ性がなかったようで、自分の身辺を狙われないように、狙う者から守られるように、義理の弟（妹の夫）**ネリグロツサル**（右）を親衛隊長にします。

エヴィル・メロダクが王になって2年後、この親衛隊長**ネリグロツサル**がクーデターを起こしてエヴィル・メロダクを殺し、自分が王になりました。これは17世紀にオランダで出版されたバビロニア古代史の本で、こんな顔だったということじゃないんですよ。全くの想像です。

初代は**ナボポラッサル**（在位 BC626-BC605）。2代目は**ネブカドネツアル**（在位 BC605-BC562）。3代目の**エヴィル・メロダク**は2年でおしまい（在位 BC562-BC560）。4代目の**ネリグロツサル**は4年間王（在位 BC560-BC556）でしたが、4年で寿命で亡くなりました。



次に、**ネリグロツサル**の息子が王になります。
ラバシ・マルドゥク（在位 BC556-BC556）。
彼の彫像か絵画がないか探しまくったけど、無いんです。
彼が王だった期間は2か月だけ。

あまりにも短かったので、これがせいぜい。アッカド語でラバシ・マルドゥク。
右から左に読みます。ヘブライ語と同じ、セム語のグループですね。
マルドゥクはバビロンのナンバーワンの神ですが、この人物は2か月で王をやめる
ことになりました。暗殺されたんです。



暗殺者が**ナボニドゥス**（在位 BC555-BC539）です。
杖を持って立っていますが、BC539年はバビロンが滅んだ年で
すよ。だから、最後の王は**ナボニドゥス**。

これにはちょっと理由があります。
杖のすぐ右に、何か丸いボタンのようなものがありますね。
これは三日月です。彼は民族的にはアラム人で、アラム人の神
である月の神シンを信じてるんです。

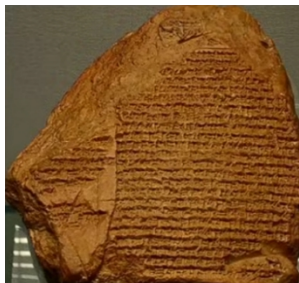
彼が王になって最初にやったことは宗教改革でした。
ネブカドネツアルの後、たった7年間で王が3人代わりましたね。
しかも、そのうち2人は暗殺です。王国なのに、王のファミリー内でゴタゴタがど
んどん続いている。
それを見た時、ロイヤルファミリーに侮りの心を持つグループが出て来たんです。
それは聖書によると**呪法師・呪文師・カルデア人**で、王の政治顧問たち。
彼らは古文書の読解・星占い・占星術や偶像にお伺いを立てて、王に政治的アドバ
イスをします。

そして、基本的に世襲です。7年間で王が3人もコロコロ代わった。
だけどこの間、政治顧問たちは同じ人なんですよ。王の家族の中がどんどん崩れて
いく中で、祭司階級・神主階級の人たちが、王に侮りの心を持っている。
「次の王だって、どこまで持つか分からない。短命で終わるかも。」「王に知恵を
授けるのは我々だ。」これを放っておくと乗っ取られますよ、呪法師たちに。

そこで、ナボニドゥス王は大宗教改革をやったんです。
バビロンの最高位の神はマルドゥク。**呪法師・呪文師・カルデア人**はマルドゥクの
神官・神主。ナボニドゥスは、自分が信じている月の神シンをバビロンのナンバ
ーワンの神とし、マルドゥクを格下げしたんです。

そうして、マルドゥクの神主ということで立場を守っていた彼らを弱体化させたん
ですが、意外なことに、バビロンの一般市民たちから大不興を買いました。
バビロンの一般市民たちはマルドゥク神を信じているというか、慣れ親しんで来た
ので、「今さら急にシン?!なんで?」
そんな宗教改革をやった王に表立って文句言えないけど、面従腹背というか全然人

気がない。それでナボドゥスはバビロンにいるのが嫌になって、王なのに家出します。バビロンを出て、オアシスの町タイマー（現サウジアラビア）で隠居生活。王なのに10年間も国を留守にしてたら乗っ取られますよ。そこで、「私が留守の間、代わりに王になってくれ」と息子に王権を頼みます。それがベルシャツアル。



これは「ナボドゥスの碑文」と言われている遺跡で、この中に「我が最愛の子ベルシャツアル」という言葉があるんです。これが発掘されたのは1862年だったと思います。初めて遺跡によっても、ベルシャツアルという人物が実在したことが立証されたんですね。

ベルシャツアルはいた。バビロンに残って、実質的に王の仕事をしていたのはベルシャツアルだ、という聖書の記述は全く正確であることが分かるんです。



これはある方が描いた絵ですが、右上方に光り輝く文字が出てますね。「メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン」と書いてあるんです。

レンブラントも描いていますが、「メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン」が縦書きになってるんですよ。何でやねんと。専門知識がそんなになかったのかもしれない。

左側で説明を聞いている人、金のカップを持っていますね。これはエルサレム神殿から略奪した物です。

イスラエルの神を礼拝する器具でどんちゃん騒ぎしていた。それに対して、右側の老人が「あなたは神の前に目方が足りません！」と宣告しています。彼がダニエルです。この時、ダニエルは80歳前後だったと思われます。

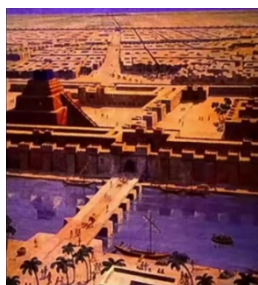


戦争中なのに、なぜどんちゃん騒ぎができたのか。

バビロンは難攻不落だったんですね。

真ん中を流れているのがユーフラテス川。

周りには堀があり、二重城壁で囲まれ、どこから攻められても反撃できる難攻不落の都市でした。



ユーフラテス川をまたぐように町が建っていました。左側の台形の形をしたのがバベルの塔です。



このバビロンを陥落したのがペルシア・メディアの連合軍。そのトップがキュロス王です。

「キュロスって、羽生えてたん？」

いやいや。偉い人はオーバーに、神の使いのように描かれたんですね



これは、キュロスによってバビロンが陥落した瞬間を描いたものです。ちょっと見えにくいけど、本来水が流れている部分全体が人間なんですよ。ペルシア・メディアの連合軍がすし詰め状態となつて、バビロンになだれ打って行くんですね。

新バビロニアの王についてまとめます。

- ①ナボポラッサル (BC625 – BC605) ②ネブカドネツアル2世 (BC604 – BC562)
③エヴィル・マルドゥク (BC562 – BC560 暗殺) ④暗殺したネリグロッサル (BC560 – BC556) ⑤ラバシ・マルドゥク (BC556 – 9 か月で暗殺) ⑥暗殺したナボニドゥス (BC555 – BC539) …息子のベルシャツアル (摂政) と共同統治。

ベルシャツアルがバビロンの最後の王として実権を握っていたことが、考古学的に立証されている。すなわち、聖書の記述は非常に正確だと言えるんです。

2. **どんちゃん騒ぎを戦争中にやるか。**

ダニエル書 5章

1 ベルシャツアル王は、千人の貴族たちのために大宴会を催し、その千人の前でぶどう酒を飲んでいました。(余裕じゃん！酒飲んでんのか！)

2 ベルシャツアルは、酒の勢いに任せて、父ネブカドネツアルがエルサレムの宮から持ち出した金や銀の器を持って来るように命じた。王とその貴族たち、および王の側室たちや侍女たちがその器で飲むためであった。

父ネブカドネツアル？ さっき、父ナボニドゥスで言うたやん。

父には“父”と“父祖・先祖”の意味があります。自分を生んだ父とは限らない。ここは“父祖ネブカドネツアル”と解釈するんですね。

4 彼らはぶどう酒を飲み、金、銀、青銅、鉄、木、石の神々を賛美した。

バビロンの東からメディアとペルシアが台頭し、破竹の勢いで様々な国々を制圧して、いよいよバビロンに近づいて来るのが分かった。

タイマーに隠居していたナボニドゥスは、呑気に隠居生活してられないということで、大急ぎでバビロンに戻りました。

これから戦争するのに、皆の心がバラバラでは勝てるものも勝てない。

バビロンに戻ったナボニドゥスは、2回目の宗教改革をやります。

バビロンの配下には色んな都市国家があり、それぞれにそれぞれの偶像があるんですが、ナボニドゥスは、都市国家を守ってくれる守護神を表している偶像を全部、バビロンに持って来させました。バビロン中の偶像を全部集めたんですね。

「もう月の神シンにこだわるのをやめる。それぞれの神を拜んだらいい。」

金、銀、青銅、鉄、木、石の神々。これはナボニドゥスが集めた神々です。

これ6種類でしょ。バビロンは6が大好き。今までも6ばかり出て来ました。

ここは60進法の国なんです。聖書では、6ってあんまり良くない。

ナボニドゥスは偶像を集め、心を一つにして戦いに出ますが、生け捕りされてしまいました。10年ぶりに王が帰って来て、バビロン中の神々を集めて「さあこれから！」という時に、肝心要のナボニドゥスがいなくなったら、皆の心はシューっと萎みますよ。それで、皆の心をもう一度盛り上げるために、人心を一新するための大合同礼拝をやってるんですね。ただのどんちゃん騒ぎじゃないんです。

彼らはぶどう酒を飲み、金、銀、青銅、鉄、木、石の神々を賛美した。

これは礼拝なんです。バビロンの偶像にささげ物をして、お酒を飲んで、そして、彼らの宗教形態は乱痴気騒ぎ。

ただの遊びではなく「神々よ、どうぞ私たちにご加護の力をお貸してください！」追い詰められていて、神に叫びを上げているような状況なので、戦争中にこんなことをするのはあり得ないんじゃない。戦いのための偶像礼拝をやってるんです。

このことですべて説明がつく。なぜこんなにバビロンに神々がいたのか。

ナボニドゥスが集めたから。すべて説明がつくんですね。

3. たった一日でバビロンが崩壊した。

30 その夜（金、銀、青銅、鉄、木、石の神々を礼拝して、大騒ぎをしていた夜）、**カルデア人の王ベルシャツアルは**（メディア・ペルシア軍によって）**殺された。**

31 そして、**メディア人ダレイオスが、およそ六十二歳でその国を受け継いだ。**

メディア人ダレイオスについては次回やります。非常に興味深い人物ですよ。ヨセフスの『ユダヤ戦記』を合わせて見ると、彼が果たした役割が浮き彫りになります。

とにかく、たった一夜でこのバビロン大帝国が滅びたんですが、あの大きな難攻不落の町が、なぜ滅びてしまったのか。これは預言の成就なんですね。

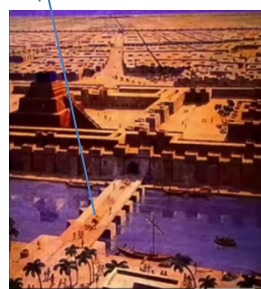
ギリシアの歴史家ヘロドトスが、このことをまとめています。



〈ユーフラテス川〉

ペルシアの**キュロス王**はバビロンを攻略するために、ユーフラテス川の上流に運河を造り、別の所にある湖に水を引っ張っていきました。

侵攻するまでは堰止めしておき、侵攻の時に堰を外して湖に水を引き込みます。同時にバビロンに入る川をカットすると、その水が湖に流れ、バビロンの水位がドンドン低くなっていく。その低くなったところに、メディア・ペルシア軍が襲い掛かりました。



〈王宮に架かる橋〉

王宮に架かる橋の隣に青銅の扉があるんですが、宴会で蒸し暑くて、開け放しにしたんです。だから、難無く入り込むことができたと書いてあるんですね。

イザヤ書 44 章

27 淵については「干上がれ。わたしはおまえの豊かな流れを涸らす」と言う。
ユーフラテス川は一年中流れてるんです。でも、その豊かな流れを涸らす。
涸れた状態で、だれが襲い掛かるのか。

28 キュロスについては「彼はわたしの牧者。わたしの望むことをすべて成し遂げる」と言う。

イザヤ書 45 章

1 主は、油注がれた者キュロスについてこう言われる。「わたしは彼の右手を握り、彼の前に諸国を下らせ、王たちの腰の帯を解き、彼の前に扉を開いて、その門を閉じさせないようにする。」

キュロスはペルシアの一番上の王です。彼が入って来てバビロンが崩壊する。
このイザヤ書の預言は、この事件が起こる 150 年前に書かれたんですよ。
どのようにしてバビロンが滅びるのかということです。

王たちの腰の帯を解く。これは、無防備・戦意喪失を意味するヘブル的表現です。
腰の帯で体に密着するように武具を留める。帯を解くというのは、防具を解いて無防備になり、「もう戦いません」と心がしなえている状態。

キュロス軍はどのように入ったのか。彼の前に扉を開いて、その門を閉じさせないようにする。もし王宮に架かる橋の扉が閉じていたら、いくらなんでも入ることはできなかったけど、宴会の真っ最中でみんな盛り上がっていたし、暑かったので開けてたんですね。それで入り込むことができたと歴史書に書いてあるんです。

エレミヤ書 50 章

35 剣がカルデア人に下り、一主のことば一バビロンの住民、その首長たち、知恵ある者たちに下る。

カルデアを地名として読むと、ユーフラテス川の南の方にある沼や沢の地帯です。
カルデア地方とは、ユーフラテス川の氾濫によっていつも湿地帯になっているエリア全体のこと。

ここのカルデア人のように、人間に規定してカルデアを使う時は、第 11 バビロニア王朝を指します。第 11 バビロニア王朝はナボポラッサル、ネブカドネツァルに始まる、聖書に出て来るバビロンのこと。

つまり、ネブカドネツァルの時に黄金時代を迎えたバビロン、住民、その首長たち、知恵ある者たちに剣が下る。突然戦争が始まる。

36 剣が易者たちにも下り、彼らは愚かになる。剣がその勇士たちにも下り、彼らは気をくじかれる。

易者たちとは、前に呪文師・呪法師・カルデア人たちと出ていた、偶像帝国バビロンの知者・政治顧問たち。なぜ気をくじかれるのか。

38 日照りがその水の上に下り、それは涸れる。そこは刻んだ像の地で、偶像に狂っているからだ。

これは、バビロンが滅びる 70 年ほど前の預言ですが、正式な時は確定できません。エレミヤは非常に長い期間預言をしたので、どの段階での預言かは分からないんですが、エレミヤ書の後半なので最晩年と考えると、70 年少し前に書いたのではないかとされています。

日照りがその水の上を下る。涸れるはずのない、そして勇士たちが頼りにしていたユーフラテス川が涸れて、水の代わりに敵の大軍が来たので、勇士たちの心はくじける。しなえる。聖書の預言がそのとおりに実現したんです。

エレミヤ書 27 章

6 今わたしはこれらすべての地域をわたしのしもべ、バビロンの王ネブカドネツアルの手に与え、野の生き物も彼に与えて彼に仕えさせる。

ネブカドネツアルは絶対的な権威を振るうことになったのですが、それは神が委ねたからだと言うんですね。

もう一度バビロンの王様の復習です。ネブカドネツアルから行きますね。

ネブカドネツアル→息子のエヴィル・メロダク（暗殺）→ネリグロツサル（暗殺者）→息子のラバシ・マルドゥク（暗殺）→ナボニドゥス（暗殺者）→息子のベルシャツアル。

ベルシャツアルのお父さんはナボニドゥス、お母さんはニトクリスで、ニトクリスはネブカドネツアル王の娘です。つまり、ベルシャツアルはネブカドネツアルの息子の息子。だから孫。それを頭に入れて

7 彼（ネブカドネツアル）の地（バビロン）に時（終わりの時）が来るまで、すべての国は、彼とその子と、その子の子に仕える。しかしその後で、多くの民や大王たちが彼を自分たちの奴隷にする。

これは、バビロンはネブカドネツアルの子と、その子の子で終わるという預言。ネブカドネツアルの子ナボニドゥス、その子ベルシャツアルの時に、バビロンは終わりました。聖書預言は見事に成就したんですね。

聖書は終末預言でまだ実現していないことも語っていますが、既の実現した聖書預言を辿るだけでも、聖書預言は真に力あるもので、正確で、聖書に書いてあることは必ず実現するという事を知るので。

最後に、彼らがなぜ裁かれたのかを見ます。

ダニエル書 5 章

24 そのため、神の前から手の先が送られて、この文字が書かれたのです。

どんちゃん騒ぎをしている時、燭台の向こうに人間の手の指のようなものが現れて、何かを書いたんです。

燭台は明かりなので、燭台の向こうは宮殿の中で一番明るい所、だれもが見えやすい所です。まるでスポットライトが当たっているみたい。

そこに文字が書かれたけど、誰も解読できなかった。

カルデア人や呪文師たちに聞くけどお手上げ。

その時、ベルシャツアル王のお母さん（ニトクリス）が出て来るんですね。ダニエルは年齢的なものか分かりませんが、もう中央政界では活躍してません。でも、ダニエルを非常に高く評価していたのがニトクリスでした。彼女は「こういう問題はダニエルを呼びなさい。」それで、ダニエルが解き明かしました。

25 その書かれた文字はこうです。「メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン。」

ヘブライ語を勉強している家内に「これ、何なん？」「アラム語やから分かん」言うてました。

メネはヘブライ語でミナ。名詞のミナはお金や重さの単位で、重さなら 575 グラム。動詞としてのミナは“数える”と“定める”。なので、メネ、メネはヘブライ語だと“数えた、数えた”。“数えたけれども足りない”という意味ですね。

テケルはヘブライ語でシェケル。シェケルは今もイスラエルの通貨単位です。名詞なら 1 ミナ = 60 シェケル。動詞なら“はかる”。特に重さ・重量を量る時にシェケルを使うそうです。

ウは接続詞で“そして”。“数えてみて、量ってみて、その結果”という意味。「バビロンよ、数えてみた。量ってみた。その結果パルシンだ！」

パルシンはヘブライ語のペレツ。“分かれる・分ける”という意味です。「バビロンよ、あなたを数えてみた。量ってみた。その結果、あなたは分割されます！」

26 「メネ」とは、神があなたの治世を数えて終わらせたということです。

27 「テケル」とは、あなたが秤で量られて、目方の足りないことが分かったということです。

28 「パルシン」とは、あなたの国が分割され、メディアとペルシアに与えられるということです。

この瞬間、バビロニア崩壊決定の宣告がされたんですね。

裁判で大きい宣告文の時、裁判官は先に判決を言わず、判決に至った理由をまずまず一つとすることがあります。その場合はむちゃくちゃ重い判決なんです。ここもそうです。ベルシャツアルにとって非常に耳が痛い、辛い判決でした。

29 そこでベルシャツアルは命じて、ダニエルに紫の衣を着せ、金の鎖を首にかけさせ、彼がこの国の第三の権力者であると布告させた。

第一の権力者はナボニドゥス。第二は自分、ベルシャツアル。

彼がほかの人に与えることができる最高の栄誉は第三の権力です。

彼（ダニエル）がこの国の第三の権力者であると布告させたその夜、カルデア人の王ベルシャツアルは殺された。ということは、ペルシアの王キュロスが入って来た。

ということは、この瞬間、ダニエルはキュロスと面会した。

キュロスと面会した時、いったいどんなことがあったのか。

「王よ、旧約聖書の中に、あなたのことが名指しで書かれてるんですよ」と言っただけじゃないですか。世界情勢の大事件のトップの層の中に神が預言者を置いて、その政治家に向かって、「あなたの命を握っているのは神なんですよ」と語ってるんですね。

ところで、世界で一番重い金属は金です。比重は鉛の1.7倍。

今はイリジウムという金属が発見されて金よりも重いんですが、当時は金ですよ。金は一番重いので、混ぜ物したらちょっと軽くなる。ちょっとくらい混ぜても分からへんやろ。いや。量ったら、24金が23金に薄められているのが分かるんですね。バビロンは金の頭と言われてるんです。ダニエル書2章で。

「神が異邦世界を治めるために、まずあなたを立てた。あなたはその系図の中に生まれて来た王だが、あなたは神の前に目方が足りない。神の基準に照らした時に、あなたは不合格である。あなたを数えたが不足している」という宣告です。なぜ、そのように言われなければならなかったのか。理由は3つあります。

18 王よ。いと高き神は、まさしくあなたの父上（父祖）ネブカドネツアルに、国と偉大さと栄光と威光をお与えになりました。

19 神が父上にお与えになった偉大さによって、諸民族、諸国民、諸言語の者たちはことごとく、父上の前に震えおののきました。彼は思いのままに人を殺し、思いのままに人を生かし、思いのままに人を高め、思いのままに人を低くしました。

20 こうして彼は、思いが高ぶり、霊が頑なになり、高慢にふるまったので、その王座から引きずり降ろされ、栄光を取り上げられました。

21 そして、人の中から追い出され、心は獣と等しくなり、野ろぼとともに住み、牛のように草を食べることになり、からだは天の露にぬれて、ついこう知ることになりました。いと高き神が人間の国を支配し、みこころにかなう者をその上にお立てになるのだと。

22 その子であるベルシャツアル王よ、あなたはこれらのことをすべて知っていながら、心を低くしませんでした。

「このことを、孫であるあなたは全部知ってますよね。この世界の本当の支配者は王じゃないでしょ。なぜあなたのおじいさんのネブカドネツアルは、バビロンで栄光栄華を極めたんですか。神が立てたからでしょ。ネブカドネツアルはそれを見誤って神に尊大な態度を取ったので、一旦野の獣みたいになったけど、また元どおりにされた。あなたは身内として、それを知っているはずだ。あなたは神を知ろうと思えば知ることができる情報を神から与えられているのに、それを考えなかった。」

足りないと言われた理由の1つは、情報があったのに、それを知ろうとしなかったこと。「おじいさんのことを知っているでしょ」ということですね。

23a けれどどこか、天の主に向かって高ぶり、その宮の器を自分の前に持って来させ、あなたと貴族たちとあなたの側室や侍女たちは、それを使ってぶどう酒を飲みました。

「名前が轟いているあのイスラエルのヤーウエの神の神殿ですら、バビロンの軍事力に倒れたじゃないか。ましてやペルシアがなんぼのもんだ?! 我々はイスラエルの神の神殿すら焼き払った強力な国。イスラエルの神に勝ったんだ!」ということを出すために、イスラエルの神を礼拝する器具で酒盛りをし、どんちゃん騒ぎをしている。

2つ目の理由は、バビロンが強かったからユダヤ人が捕囚になったんじゃない。ユダヤ人が罪深かったので神はバビロン捕囚を許したのに、それを自分の力によると錯覚したんですね。

23b あなたは、見ることも、聞くことも、知ることもできない銀、金、青銅、鉄、木、石の神々を賛美しました。しかしあなたの息をその手に握り、あなたのすべての道をご自分のものとされる神を、あなたはほめたたえませんでした。

1. あなたは知ろうと思えば知ることができたのに、そうしなかった。

2. また、創造主である絶対者の神に対して偉ぶった。

そして3つ目の理由は、偶像礼拝を悔い改めなかった。

だから、あなたは目方が足りない。不合格と裁かれた。

その日のうちに彼は殺されました。これが BC539 年の出来事です。

この記事を読んで、聖書の預言はなんと正確に、微細な点まで成就するのかと驚くと同時に、私も一度神の前に立つ時が来る。

その時、私のメネ、メネ、テケルはどうだろう。

私のすべてをご存知の方が、私の人生を数え、私が発言してきた内容を精査し、私の生き方や人生の使い方について全部を調べられる。私は神の基準に照らし合わせて、「ああ大丈夫っすよ」と言えるだろうか。とてもできない。

神の基準に照らした時「大丈夫です」と言える人間なんて、どこにもいません。

しかし、この審判者の前に立った時、その人を納得させられる超有能な弁護士がついていたらどうでしょう。

私は毎月1回、シェラトンホテルで聖書の講演会をやっています。

そこに3人の弁護士の方が毎月来られています。2人はクリスチャンで、もう1人は彼らに誘われて来られている。私も何かの時にはお世話になろうと思ってるんですね。思いがけないほど私たちに近い方で、ビックリしました。

最後に円卓で中華料理を食べながら、色んな話をして楽しい時間を過ごすんですが、京アニ事件の話になったんですよ。京都アニメーション。

ガソリンばら撒いて36人殺した。彼自身が火傷で瀕死の重症だったんですが、治療を受けて裁判に出れるところまでいきました。その最初の裁判で、弁護士が無罪を主張しましたね。「心神耗弱状態で行われたことなので、無罪を主張します。」円卓にいた人が「僕は納得いかん。」

彼は弁護士に、「36人殺して無罪主張する弁護士の心境について聞きたい。本心から無罪と思って無罪と言ったんでしょうか。」

3人とも腕を組んで黙ってたんですが、クリスチャンじゃない弁護士の人が「思ってるわけじゃないじゃないですか。あの弁護士は悪人を救うために無罪と言ったんじゃないじゃなくて、弁護士手続きに忠実なだけです。」もう身も蓋もないというか。

あの弁護士は国選弁護士です。「国選弁護士だったら不利でしょうか。」

「いや、国選弁護士だからと手を抜くってことはないです！私たちは弁護士の神に誓ってるんですよ！」（いや、私は真の神様に誓ってる！）

弁護士の神って、目隠しをして秤のやつあるでしょ。見えたらえこひいきが働くから、見えないようにしてどちらが重いかを調べるということですね。

「良心に従って、国選弁護士だからとって、手を抜くことはあり得ない！」ただね、国選弁護士の報酬は、彼もしたことがあるそうですが、大体10万円から20万円なんですね。これは私選弁護士の着手金にも満たないと言ってました。

国選弁護士の場合は自分で弁護士を選べません。国選弁護士に費用を払うのは国で、国の費用で弁護してもらうんです。国が順番に弁護士を付けるので、例えば刑事事件の場合、刑事事件に精通している弁護士に担当してもらいたいと思うけど、そうじゃない人に当たっても「嫌や」と言う権利はないんです。くじ引きに近いと。

「本当に無罪と思ってやってるんでしょうか→そんなはずないじゃないですか」という言葉と、「喜んでやるんでしょうか→そんなはずないじゃないですか」という言葉がもうね…。帰りながら心の中がムニユムニユしてました。

神の前に立った時、「メネ、メネ、テケル、ウ・パルシン。」

しかし、神は完璧な弁護士を準備してくださいました。

その方は嫌々じゃない。心神耗弱状態とかの屁理屈付けない。

「わたしが罰を受けるので赦してください」という司法取引です。

このイエス・キリストというメシアがやがて来られるということ、詳細に、他の預言書にはない、いつ、どのタイミングでメシアが来るのかを預言しているのがダニエル書なんです。

ダニエル書を読むたびに、「ああ、弁護者が欲しい！」と思いますねえ。

神は人間のその悲痛な叫びに見事に応え得る究極の弁護士を、メシアとして遣わしてくださいます。私はその方を信じてクリスチャンになりました。

聖書の裁きが本当なら、裁きを免れるための救い主も本当のことです。

ぜひ、このキリストを信じてください。そして終末時代、何があってもいいように備えてください。心からお勧めします。

☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆ ☆*: .. 0 ..:*☆

引用文献；新日本聖書刊行会『聖書 新改訳 2017』いのちのことば社,2017